

家読(うちどく)とは

「家読(うちどく)」は、「家庭読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、家族み



1日 10分
物語を
毎日少しずつ読みがたり、
「つづきは明日ね…」といって
本を閉じる…
そんなふう to 本の世界を
楽しみませんか。



おうちで“物語体験”を楽しむための

ブックスクリスト



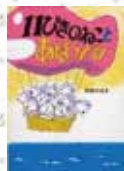
『バルバルさん』
乾 栄里子 文/西村 敏雄 絵 (福音館書店) 32p

バルバルさんは、森の床屋さん。ある日、たてがみがかったいいライオンさんが来ました。ライオンさんがウトウト寝ている間に、チョコチョコチョコ…バルバルさんは切りすぎてしまい、ライオンさんは大変身。



『あなのはなし』
ミウ・マリウ 作/二見 正直 絵/間崎 ルリ子 訳 (偕成社) 27p

くつしたにいた“あな”は、ひとり旅に出ることにしました。次々に仲間と出会い旅を続ける“あな”、とうとうオオカミと遭遇し、みんな食べられるのですが、さて…。絵本に本物の穴があいていてびっくりです。



『11びきのねことおほうどり』
馬場 のぼる 作 (こぐま社) 40p

11びきのねこはクロックの店をはじめました。毎日売れ残りのクロックを食べているうちに見るのもいやになりました。「とりのまるやきがたべたいねえ」と話していると「こんばんは」とおほうどりが、ねこの目がかがやきました。



『なまえのないねこ』
竹下 文字 文/町田 尚子 絵 (小峰書店) 32p

どのページにもねこ、ねこ、ねこ。思わす手を伸ばしてさわりたいくなる、ねこ目線の絵本。「なまえのないねこ」のほしかったものは？ほっとする最後に、何度も読み返したくなる。「見返し」も楽しめる。



『トラのじゅうたんになりたかったトラ』
ゾエラド・ロズ 文/絵/ふしみみさを 訳 (岩波書店) 32p

やせけておなかをすかせたトラはある時、王さまの“せたくひも”にぶらさがることを思いつきました。そう、トラの毛がわに見せかけて、宮殿に住みこもう！というわけです。さあ、この作戦、うまくいくでしょうか？乞うご期待！



『チムとゆうかんなせんちょうさん』
ドワード・アデグニ 作/せた ていじ 訳 (福音館書店) 47p

“ふなのり”にあこがれているチム。なんとかうまく乗りこめたもの、ある日、激しい風が船を襲い、船長と二人、船と運命をともにすることに。自分と重ね合わせてドキドキの子どもたち、大冒険のハッピーエンドに拍手喝采です！



『としょかんライオン』シル・ヌドゥ 作/ビッ・ホリス 絵/福本 友美子 訳 (岩崎書店) ページ付なし

あるひ、としょかんにやってきたライオン。さいしょは、みんなびっくりしたけれど、だんだんなかよしくなっています。ところがあるひ…。あなたもきっとライオンとともだちになれる1冊です。



『オタマジャクシのうんどうかい』
阿部 夏丸 作/村上 康成 絵 (講談社) 80p

しっぽが短くなってしまったオタマジャクシのたまは速く泳げない。みんなは運動会で「かけっこのスタート地点をかける」というハンデをたまに与えようとするが、たまはうれしくない。



『あしたもオカビ』
齊藤 倫 作/fancomi 絵 (偕成社) 79p

よつばの夜には、動物たちの願いが何でもかなうという。不思議な月が出た夜、不思議な動物オカビが、動物園中の鍵をあけて歩き出す。オカビが聞いた動物たちの願いごとは？そして、最後に、オカビが願うのは。



『まほうのじどうはんばいき』
やまだ ともこ 作/いとう みき 絵 (金の星社) 94p

学校の帰り道「あなたのみかた」と書いた自動販売機を見つけた。ボタンを押すと欲しかったカプトムシが出てきた。ところがある日、自動販売機は突然なくなっていた。魔法の自動販売機に出会った男の子の成長を描く。



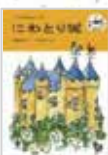
『あまのじゃくにかんぱい!』
宮川 ひろ 作/小泉 るみ子 絵 (童心社) 96p

えりと雄也は、あまのじゃくなおばあちゃんの「いじわる教室」に、参加することに。草むしりに始まり、おかまでのご飯炊きや五右衛門風呂のそうじに水くみ、文句を言いながらも一つ一つ達成していく子どもたち。



『ロボット・カミイ』ふるた たるひ 作/ほりうち せいいち 絵 (福音館書店) 92p

だけしとようこが、段ボール箱でロボットを作ります。紙で作ったロボットだから、名前はカミイ。いたずらでわがままで泣き虫ですが力持ち。楽しみにしていた幼稚園に入って大騒ぎを起こします。



『にわとり城』
松野 正子 作/大社 玲子 絵 (こぐま社) 72p

たった一羽のにわとりと旅立った心優しい「のろまむすこ」。真っ暗な森での「まもの」との対決。昔話を思わせる骨太の筋立て。大好きなハラハラドキドキ「なぞなぞ」入りストーリー。幸せなラストページをぜひ家族で味わって！



『スキナ屋敷のオバケさん オバケ屋敷にお引越し』
富安 陽子 作/たしろ ちさと 絵 (ひさかたチャイルド) 118p

オバケさんは料理研究家。オバケイチロウという立派な本名があるのですが、縮めてオバケさん。さてある日、引越したオバケさん。そのスキナ屋敷には不思議な秘密が隠れているそうで、あれあれ？オバケさん、大丈夫かな？



『ネコのタクシー』
南部 和也 作/さとう あや 絵 (福音館書店) 88p

のらネコのトムはタクシー運転手ランスさんの家のネコになりました。ある日ランスさんが骨折をして仕事に行けなくなったので、トムは小さなネコ用のタクシーを作ってもらい、仕事をはじめました。運賃1ポンドで町の大評判！



『ぼくはアフリカにすむキリンといひます』
岩佐 めぐみ 作/高畠 純 絵 (偕成社) 101p

友だちがほしいと思っていたキリンは、ペリカンが郵便配達をはじめたことを知り、手紙を書くことを思いつきます。「地平線のむこうで最初にあった動物にわたししてほしい」とペリカンにたのんだら…。



『しろくまだって』
斉藤 洋 作/高畠 純 絵 (小峰書店) 127p

マルクとカールは、しろくまの兄弟。人間の落とっていったラジオで言葉を覚えた二人は、町へ出て行き、“しろくまじの宅配便”で大当たり。好奇心にあふれた二人の生き方をユーモアたっぷりに描いた楽しい物語。



『ふしぎな木の実の料理法』
岡田 淳 作 (理論社) 189p

雪の日に聞いた小包。中身は「ポアポア」と雪に濡れて読めなくなった手紙です。受け取ったスキッパーは「こそあどの森」のみんなに相談。ポアポアってなんの木の実？料理法は？ドキドキの謎解きが解決したラストは幸せいっぱい！



『大どろぼうホツツェンプロッツ』
ホリト・アハル 作/中村 浩三 訳 (偕成社) 184p

大どろぼうホツツェンプロッツは大悪党。カスパーとゼッペルは果敢に挑みますが、あえなく失敗。そこに大魔法使いまで登場し、二人は大ピンチ！巧みなストーリー展開で手に汗にぎる攻防が、そのハラハラドキドキは大団円に！



『ルドルフとイッパイアッテナ』
斉藤 洋 作/杉浦 範茂 絵 (講談社) 273p

知らない町に来てしまった黒ねこルドルフ、太い声のトラねこ「イッパイアッテナ」に出会う。「おれの名前は、いっばいあってな。」という言葉に早合点したルドルフが命名されたようなもの。ここから“二人”の熱い友情物語が始まる！



『長くつ下のピッピー』アストリッド・リッドグレン 作/イヴリット・ガッ・コイツ 絵/菱木 晃子 訳 (岩波書店) 198p

世界一強い、赤毛とそばかすの女の子ピッピー。お母さんもお父さんもないけど、隣に住むトミーとアニカ、サル・ニルソン氏と自由に勇気ある冒険を繰り広げます。ピッピーの前向きな姿にいつの間にか元気が湧いてきます。



『野生のロボット』
ビー・カー・フック 作/絵/前沢 明枝 訳 (福音館書店) 304p

無人島に漂着したロボットのロスは、生き抜くため、野生動物との共存を試みる。動物の言葉を学習し、雁の子を育て、島での生活に馴染んでいく。そんなある日、ロスを回収するためにやってきたロボットと戦うことに…。

まずは **絵本** の読み聞かせを
たっぷり楽しんで！

つづいて 数日から1週間で読み切れる
幼年童話 を！

そして10日から1~2カ月かけて読破する
児童文学 に挑戦！

